

第6学年 社会の実践

1 大単元「武士の世の中」 小単元名「全国統一への動き」

2 小単元の目標

長篠の戦いや戦国の世の統一に関心をもち、天下統一を進めた信長、天下統一をなしとげた秀吉、全国支配を固めた家康について調べ、戦国の世が統一されたことがわかり、我国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

3. ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 児童の実態からの指導の工夫

まず社会科に対するの児童の意識などの実態を把握するため、以下のような事前調査を実施した。

①社会科の歴史学習への関心・意欲・態度の工夫

「歴史学習は好きですか」という問いに対して、「好き」「少し好き」と答えた児童が学級全体の70%以上を占めてた。これは「覚えることが多い」「人物の名前が難しい」といった意見も見られるが、多くの児童は歴史学習に関心をもち、意欲的に取り組んでいることが分かる。「人を調べることが好き」「その時を想像することが楽しい」という歴史自体に興味を持つ理由が多いことから、歴史そのものの魅力を引き出す必要がある。信長・秀吉・家康の3人の思いや働きに焦点を当て調べていく活動が中心である本小単元でも、人物の魅力を感じることで、意欲的な取り組みが期待できると考えた。そこでグループ活動など学習形態の工夫などを行っていくことで、児童がさらに主体的に活動を進め、多くの知識や技能を身に付けることができるよう支援していった。

②学習技能からの工夫

学習の進め方としては「先生の話・説明を聞く」「教科書や資料集で調べる」という教科書を中心に、教師の説明を交えて進める従来の形態を好む児童が学級の6割と多かった。また、好きな学習方法については「テレビでその時代の様子を見て、新しい知識を知る。」「インターネットで調べる」「発掘を見学する」を挙げる児童の多さが目についた。そこで、従来の学習形態を基本として学習活動を展開しながら、テレビ映像・インターネットなどの視聴覚教材を活用した調べ活動を行っていくようにした。さらに、教師による解説といった活動も効果的に取り入れながら学習を進めていった。

(2) ひびきあいについて

「ひびきあい」をするためには社会だけではなく、全教科において、『聴く・話す』についても意識して、取り組んでいくことが必要だと考え、取り組んだ。その結果、子ども達は進んで話そうという気持ちや人の話を聴こうとする気持ちを意識し、育ちつつあった。しかし、友だちの考えを聴いても他人事としてながしてしまったり、相手にわかるように大きな声で話したり、話し手を見て、うなずくなどの反応をすることが、身につけているのは一部の児童だけというのが現状だった。特に社会の学習では、個々の表現力が不足していることから、自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えられないことも多くみられた。

そこで社会の学習ではたびたび個人で調べたことについての発表を行う機会を多く設けて、自分が調べた内容を自分の言葉で説明する経験を積めるようにした。子ども達は発表やまとめることがすきで、ノートやワークシート(新聞形式)にまとめて自分の考えを発表することを中心に行ってきた。最初は、仲間の発表を聞き、どんな思いでその活動に取り組もうとしているのか、またどんな視点で課題を見つけているかなどには気づくことができなかった。そこで、自他の考えを認めあったり自分の思いと比べながら考えを話す姿をめざし、社会だけではなく他教科でも同様に取り組みを試みた。このような活動を続けることで、自分の課題をより明確にすることができ、再度自分の考えを深めていき、その結果、実践することができる姿が「ひびきあい」になると考えた。

4. 単元と指導について

①単元について	②指導について
本小単元では、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まりの3つの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、戦国の世が統一され、長く安定した武士の世の中の基盤がつくられたことが分かるようにすることをねらいとしている。 そこで本小単元では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の武将の業績を中心に	「地域教材による導入について」 今まで知っていながら特に興味を持っていなかったことでも、ある程度の知識を持った状態でその事柄にふれると、急に関心を持つ子どもが多い。そこで、当時の堀や土塁が、今でも学校周辺や徒歩圏内に残っている小田原古城跡を用いて導入としたい。(現在的小田原城は江戸時代の形式に乗っ取っているため)。また、3年生の時に遠足で出かけたこともある石垣山一夜城は、小田原攻めの際秀吉が本陣とした場所であ

調べ、天下統一への道をまとめさせていきたい。戦国の世に生きる3人の武将については、エピソードを交えながら興味・関心をもたせることがポイントとなる。また、それぞれの業績を天下統一に果たした役割と結び付けられるように意識させることも大切である。キリスト教や鉄砲など外国の文化が天下統一にどのような影響をあたえたのかについても合わせて考えられるようにしたい。

3人の武将の業績を調べ、天下統一への道を自分なりにまとめる活動を通して、3人が戦国の世の課題を解決するために様々な工夫や努力をしたことに気付くとともに、安土城や大阪城、江戸のまちといった3人が生み出した文化遺産からその思いなどについても考えさせたい。

「本小単元に関わる事柄について」

「戦国時代に活躍した人物」という問いに対しては実に多くの人物名が挙げた。中でも児童の多くが挙げたのが信長（19名）・秀吉（13名）・家康（13名）であった。また、「戦国時代について知っていること」という問いに対しては「鉄砲やキリスト教の伝来」「長篠の戦い」「3人の武将の天下統一への道のり」といった本小単元で学ぶべき事柄が事前アンケートで挙げられ、児童の関心の高さ、知識量の多さを改めて確認することができた。本小単元の学習を行うにあたっての基盤となる視点や知識をもつ児童を活動の中で取り上げ、生かすことで、他の児童が学習を進める上での参考とさせたい。

その反面、「北條氏について知っていること」という問いに対して回答した児童はほとんどいなかった。当時の歴史的な中心地での出来事やそこで活躍した人物への関心は高いのだが、郷土である小田原市の歴史までは理解していないのが現状であることが分かる。そこで、三の丸小学校周辺の小田原城古城跡地を見学したり、3武将と北條氏の関係を記した資料を提示したりすることで、3人と小田原市との関係を知ること、児童の知的な好奇心はさらに高まり、学習への動機付けや学習の深化を図ることができると思う。

る。そのような場所を紹介することによって、子どもたちの「もっと知りたい」という知的な好奇心を喚起し、戦国時代をより身近なものとしてとらえられるようにしたい。

「子どもの見とりと学習過程について」

これまでの学習は、わかった事実に対して自分がどう思ったのか考えや思いをノートや新聞などでまとめながら学習をつくってきた。本単元でも、子どもたちのそのような考えが生きる展開を行いたい。まずは、共通の資料として教科書や資料集を用いて、最低限の歴史的な事象をおさえる。そして、「一番魅力的な人物（一番好きな人は？）」という単元を貫く課題を設定し、3武将のそれぞれの政策や人柄、3人の関係、戦国の世の様子などを調べる学習の段階において、「自分の思い・考え」のための根拠を明らかにする資料を準備できるようにする。そして、3人を比較しながら学習を進めることで、子どもたちの中から、「信長の方が好きだ。」「秀吉は頭がいい。なぜなら・・・。」「△△なので、リーダーには家康がふさわしい。」などの思いが生まれることを期待したい。また、「一番魅力的」という単元を貫く学習課題を設定することで伝え合い活動による言語活動の充実を図ることができるようにする。本時では3武将を調べた後、リーダーとしてふさわしい人物はどちらかを話し合う。本来どちらが、と決められることではないが、比較することにより根拠にこだわり、話し合いに切実感が生まれると考えている。

さらに、自作の地域教材を提示することで、戦国時代を生き抜いた諸国の大名の思いに迫り、天下統一の大きな流れを比較対照させながら学習を進めていきたい。

「ひびき合いについて」

本単元では、3武将を調べた後、「3人の中であなたが好きな人は？」という話し合いの場面でひびき合いが見られると考えている。子ども一人ひとりが課題を解決したいという切実感は、根拠にこだわり、お互いの価値観がぶつかる話し合いにつながると考えている。3人の中で自分が選んだ人物が、どのような魅力を持っているのか。自分が思ったこだわりの根拠を他者に伝え、他者のこだわりを吸収して自分の考えを見直し、再度自分の考えをつくっていく姿を、「ひびき合い」としたい。

5. 単元構想について

単元構想 全国統一の動き（7時間）

単元目標 織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の考え方や生き方に関心を持ち、3人の武将の働きについて各種の資料を活用しながら調べ、戦国の世から全国が統一されるまでの過程で、3人の武将が果たしたそれぞれの役割に気づき、小田原とのつながりについて理解と関心を深める。

4年「昔から今へと続くまちづくり」
人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

総合「小田原提灯作り」家紋や紋章を参考にして制作。
・小田原市のマークは？・三角のマークが駅にあるよ。
・自分の家の家紋を覚えてもらったよ

修学旅行「日光東照宮をはじめする寺社の見学」
・徳川家康の墓だ・黒田長政・伊達政宗の名前があるよ。
・小田原の名前が見つかったよ。

小田原の他に日本各地にはどのような大名がいたのかを調べる。

小田原城小峰の大堀切跡（戦国時代の遺跡）の見学

「信長・秀吉・家康の中で、あなたが一番好きな人は誰？」

・「信長。」「秀吉。」「家康。」
・どんな人かよく知らないよ。名前だけは知っているよ。

・伊達政宗の家紋を提灯にしたよ。
・黒田勘兵衛をテレビで見ているよ。
・上杉謙信・武田信玄を知っているよ。
・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康。

・歴史漫画で読んだことがあるよ。
・ゲームで知っているよ。
・大河ドラマで見たことがあるよ。
・お城にいったことがあるよ。

・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が天下統一に果たした役割

戦国時代の様子について3人が関わった「長篠の戦い」の絵を基に話し合おう。

・真ん中に櫓がある。
・鉄砲を持っている人がいる。
・馬に乗っている人がいる。
・鉄砲を持って戦う方が有利だ。



織田信長はどんなところがすごい人何のか

「鳴かぬなら殺してしまへホトギス」
桶狭間の戦い 長篠の戦い（鉄砲の使用）
石山本願寺攻撃（対仏教勢力） 本能寺の変
楽市楽座 関所の廃止 キリスト教の保護
南蛮貿易 キリスト教の保護

・古いしきたりにとらわれず、新しいものを取り入れて実行する性格だった見たい。
・今川義元を破ったんだよ。・長篠の戦いで武田氏を破ったんだよ。
・鉄砲を使ったんだよ。・周りの大名を次々と破っていったんだよ。
・安土城を築いたんだよ。・誰でも自由に商業を営めるようにしたんだよ。
・明智光秀にそむかれて倒されたんだよ。

・織田信長は、周囲の大名を倒して勢力を広げたんだね。
・室町幕府を倒し、信長に対抗する仏教勢力や堺も倒したんだね。
・安土城を築いて、城下町をつくり産業を発展させたんだね。

豊臣秀吉はどんなところがすごい人何のかな？

「鳴かぬなら鳴かせて見せようホトギス」
山崎の戦い 四国平定 九州平定
奥州平定 小田原征伐
検地 刀狩 関所の廃止 楽市楽座
鉱山の開発と貨幣の統一 キリスト教の禁止
朱印船貿易 朝鮮侵略

・身分の低い武士の子だったみたい。
・信長のあとをついで、天下統一をなしたんだよ。
・小田原の戦いで北条氏を破ったんだよ。・大阪城を築いて政治の拠点とした。
・刀狩令を出して、農民が一揆を起こさないようにしたんだよ。
・朝廷から関白・太政大臣という最高の地位を送られて全国を支配したんだよ。
・検地を行ったんだよ。・朝鮮に二度にわたって大軍を送ったんだよ。

・豊臣秀吉は、光秀を倒した後8年で、全国を統一したんだね。
・検地をして年貢を納める義務を負わせ、刀狩で武器を取り上げ、身分の区別をはっきりさせたんだね。
・朝鮮へ2度も侵略したんだね。

徳川家康はどんなところがすごい人何のかな？

「鳴かぬなら鳴くまでまとうホトギス」
関ヶ原の戦い 大阪冬の陣 大阪夏の陣
江戸幕府の体制づくり 江戸の開発
キリスト教の禁止 朱印船貿易

・幼いころは人質だったんだよ。
・関ヶ原の戦いで豊臣方を破って全国の名を従えた。
・1603年、朝廷から征夷大將軍に任命されたんだよ。
・江戸に幕府を開いたんだよ。
・外国との貿易を熱心に進めたんだよ。
・朝鮮との国交を回復したんだよ。

・関ヶ原の戦いでは、豊臣方の大名を破って、全国の名を従えたんだね。豊臣氏も滅ぼしたんだね。
・征夷大將軍になって、江戸に幕府を開いたんだね。
・2代目の秀忠に、将軍をゆずったんだね。

信長・秀吉・家康の中で、あなたが一番すごいと思う人は誰ですか？（本時）



鉄砲を取り入れた戦術を考えたり、キリスト教を保護して、ヨーロッパの文化を取り入れたり、楽市楽座でだれでも自由に商売ができるようにするなど、天下統一を成し遂げていく中で、新しい時代を築ききっかけをつくったので、



織田信長の死後、その路線を引き継ぎ、わずか8年で全国を統一し、検地により税収を安定させ、刀狩によって一揆を防止し、結果的に身分制が確立し、武士による支配の基礎をつくったので、



豊臣秀吉の死後、関ヶ原の合戦で勝利し、全国を支配することになる。その後、大阪冬・夏の陣で豊臣家を滅ぼし、古くから徳川家に仕えていた譜代大名を重要な役職に就け、征夷大將軍となって、江戸幕府による幕藩体制の基礎をつくったので、

この3人の中で一番すごい人だと思う。

信長・秀吉・家康と小田原（北条氏）の関係についてしよう。

・北条五大祭りを知ってるよ。・小田原駅に銅像があるよ。・家の近くにお墓があるよ。・秀吉に負けちゃったよ。・遠足で石垣山に登ったよ。・秀吉が小田原を攻めたんだよ。
・小田原城は防御力強いんだよ。・小田原城で葵のご紋の瓦が見つかったよ。・上杉謙信や武田信玄が攻めてきたんだよ。・この前テレビで出ていたよ。



北条氏は、伊勢平氏の一族である伊勢新九郎盛時（北条早雲）を祖とする、関東の戦国大名です。早雲・氏綱・氏康・氏直の五代・百年にわたる、最大時には二百四十万石の版図を支配しました。

天正八年（1580年）、氏直（4代）は織田信長に同盟を申し出ます。氏直（5代）と信長の娘との婚姻によって、信長との同盟の強化を図ろうとしたものとされます。

天正十八年（1590年）、豊臣秀吉による小田原攻めが始まります。龍城は三ヶ月に及びます。氏直は、和議を結ぶことを決意し、秀吉に降伏します。氏直は、義父の家康の嘆願もあり、秀吉から助命されます。

天正十一年（1583年）、前年に結ばれた徳川氏と北条氏の同盟に基づいて、家康の娘の督姫が氏直に嫁ぎます。小田原攻めで小田原北条氏は滅びますが、徳川家康が氏直（5代）の義父にあたることから、かつて同盟関係にあった家康が天下を取ると、縁故の数家が再興されています。

・織田信長と同盟を結ぼうとしていたなんて知らなかった。・秀吉と三ヶ月も戦ったんだね。・家康の娘と結婚していたんだね。・北条氏はまだ続いたんだね。

・誰も戦わなかったということは自分たちの築いてきたものは壊れなかったのかな。・戦国時代の終わりがこの小田原だということに驚いた。・天下を統一すればよかったのに。・100年も平和が続くなんてすごいね。・北条氏や小田原の人にとってはよかったかもしれない。自分たちの築いてきた町が壊れなくてすんだ。

小田原評定＝「長引くだけで、いっこうにちがいがあかない相談のたとえ。」



小田原評定＝小田原では「物事を時間をかけてじっくり議論する」

6. 本時について

4. 本時について (6/7)

(1) 目標

信長・秀吉・家康の業績をふり返り、それぞれの武将のすぐれたところを出し合いながら、天下を統一した立役者について自分なりに考えることができる。

分	主な学習活動	○主な支援・留意点 ★評価(観点)
1	前時までの確認する。 3人の武将のそれぞれの行ったこと、すぐれたところをまとめる。 「鳴かぬなら殺してしまえホトギス」 桶狭間の戦い 長篠の戦い(鉄砲の使用) 石山本願寺攻撃(対仏教勢力) 本能寺の変 楽市楽座 関所の廃止 キリスト教の保護 南蛮貿易 キリスト教の保護 「鳴かぬなら鳴かせて見せようホトギス」 山崎の戦い 四国平定 九州平定 奥州平定 小田原征伐 検地 刀狩 関所の廃止 楽市楽座 鉱山の開発と貨幣の統一 キリスト教の禁止 朱印船貿易 朝鮮侵略 「鳴かぬなら鳴くまでまとうホトギス」 関ヶ原の戦い 大坂冬の陣 大坂夏の陣 江戸幕府の体制づくり 江戸の開発 キリスト教の禁止 朱印船貿易	○児童の考えを把握し、賞賛し、認めるために、全員にノートを持たせる。目を通した後で、板書させる。 ○黒板を3つに分け、3武将の特徴が一目で分かるように板書する。 (意識させたい論点) 信長・秀吉・家康の3人の武将の業績について、それぞれ挙げさせ、比較することで、誰が天下統一のために活躍したかを判断させたい。 ○すべての児童が考えをもてるように、書くのが苦手な子には、板書を参考にさせる。 ○結論を先に言ってから、理由を言う型に合わせて、発表させる。 ○考えをより深めるために、友達の発表に対して、賛成や反対などの考えをノートに書かせる。一人では考えられない子もいるので、グループになって話し合ってもよいことを告げる。 ★自分の考えと友だちの考えを比べて、話し合いに参加しようとしているか。(発言・ノート)【関心意欲態度】
2	学習課題を提示する。 (T)それぞれの活躍をあげて比べてみて、天下を統一した立役者は誰かを考えてみましょう。 3人の中であなたが自分が好きな人は誰でしょうか？(本時) 「キリスト教の布教を許したから。」 「関所をやめ、商人が自由に出入りするようにした。誰でも自由に商売ができるようにしたから。」 「悪いのは外見だけで、本当はいい人だったかもしれない。」 「誰よりも早く鉄砲を手に入れたのは信長だったから。」 「信長が天下を取って、楽市楽座などでみんなが自由に行き来できた人々から、一番信頼されていたと思う。」 「度胸があって強いから。」 「織田信長の死後、その路線を引き継いだ。」 「わずか8年で全国を統一した。」 「検地により税収を安定させた。」 「刀狩によって一揆を防止した。」 「身分制を確立し、武士による支配の基礎をつくった。」 「信長に一生懸命仕えていた。明智光秀をすぐに成敗したから。」 「農民の出身から関白にまでなったから。」 「征夷大将軍となって、江戸幕府による幕藩体制の基礎をつくった。」 「5歳〜18歳まで人質生活したのに天下統一するなんてすごいから。」 「淋しい村だった江戸を城下町を決めて街づくりをしたから。」 「ホトギスの歌を聞くとき信長と秀吉は、私語するから。」 「このあと、平和が260年続く基本を造った人だから。」	グループから全体へと学習形態を広げることで、自分の考えに広がりや深まりが出てくるようにする。 ★これまで調べたことをもとに、自分の考えを持つことができたか。(発言・ノート)【思考判断】
3	班で、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞く。	
4	全体で発表する。	
5	自分の考えをノートにまとめる。(感想を書く。)	

7. 実践を終えて

(1) 単元全体を通して、子どもとどのように単元を作ってきたのか。

三の丸小学校周辺には教科書や歴史関係の本にも出てくる遺跡が数多く存在するが、詳しく知っているの児童は数名で、本単元でも、戦国時代は小田原北条氏が大きく関係しているが、ほとんどの子どもたちは特に意識していない。そこでまず、地元を知り、小田原や北条氏を意識することで本単元の意欲を高め、その後の学習につなげていきたいと考えた。小田原市にお願いして、発掘現場の見学に行ったり、大堀切の見学に行ったりする



ことで、歴史が今につながるものとして意識することができた子どもたちは、生まれ育った町に誇りを持つようになった。さらに、実際に本丸があった場所や濠の見学に行ったことで、それまであまり歴史に興味のなかった子ども達も、関心を持ち始めた。

また、歴史に苦手意識がある子どもには、わかりやすく身近な資料を集め、学区の地図を貼り、その場所にまず自分の家の場所を書き込ませた。その後、調べた歴史的史跡を単元中に継続的に書き込むことで自

分たちの住む身近な場所に昔、教科書に載るような人がいたという親近感を持たせ、興味・関心を単位を通して持続できるようにした。

(2) 本時の課題が子どもの切実な課題となったか。(子どもの変容)

本小単位では織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という3人の武将の生き方について「生い立ち・エピソード」「政治の治め方」という視点から調べ、それぞれの視点から「自分が好きな武将はだれか。」について考えていった。

単元の導入では歴史的遺跡をたくさん見学することで、戦国時代の特徴について共通認識を持つことができた。3人の人間的な魅力や業績について共感的に考え、子どもたちが、自分で資料を探し、考えをもつことで、「自分の意見を発表したい。」という気持ちになった。この単位では、興味・関心がよい形で表れたと思う。また、今回は自分の足で調べ、考えをまとめ、それを元にグループで自分の考えを発表させたことで、意見を『みんなの前で発表したい』という積極的な気持ちを育むことにつながったのではないかと思う。

しかし、調べ学習からは、自分の考えを持ち、考えを深めていくことは多数の子ども達は出来なかった。これは他人の意見を聞いて自分の考えをさらに深め、成長していこうとする、ひびき合いを行う手段が子ども達の中で浸透し切れていなかったといえる。このことが、自分の考えを再構築し切れず、切実な問題に至らなかった原因ではないかと考える。本単位だけでなく、興味、関心がわくような資料の提示や、話し合いのもち方などを継続して実践していくことも、切実な問題について考える上で重要になってくると思う。今後に活かしていきたい。



(3) 成果と課題



成果としては、導入時での資料の提示の仕方と調べ学習の方法いかんによって、単位の関心・意欲が全然違うということが分かった。発表に対して積極的でなかった児童が、急に意欲的になったのは、「歴史を身近に感じた。」からだと思う。そこから自分の考えを持ち、話し合うおもしろさがあったからではないかと思う。また、少数ではあるが、この単元をきっかけに歴史に興味を持ち始めた児童もあり、次の単位以降でも意欲的に調べ学習を行っている姿が見られた。

た。

課題としては、せっかく調べ学習が上手くいっていた児童がいたのに、考えを再構築していくための教師側の指示が的確でなかったことがあげられる。実際に興味をもった児童には考えを再構築した児童も少なからずいたので、そのやり方を紹介するといった配慮をすれば、違った形になっていたと思う。